

毎日1時間の家庭学習で 学力低下を防ごう！

仙台市立東二番丁小学校

家庭は家族の憩いの場ではありますが、子どもの教育の場でもあります。基本的な生活習慣を子どもが身に付けるまで寝ることは、親の務めと言われています。

また、学習面からみますと、読み、書き、計算という、小学校期の国語と算数の学習内容が、すべての学習の基礎・基本となるという点で特に大切にしなければならないものがあります。

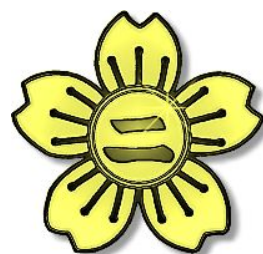
学校週5日制下の学校教育におきましても、基礎・基本の学習に力点をおいた指導を行っておりますが、定着には繰り返し学習することが必要であります。

学校では、基礎・基本の指導の外に、子どもに「自ら学ぼうとする心と学び方」を身に付けさせることにも力を入れております。

そこで、子どもが学校で学んだ「自ら学ぼうとする心と学び方」を具現化する場として、家庭学習を位置づけ、毎日1時間の家庭学習を習慣づけることで更なる基礎・基本の定着を図り、学校週5日制で心配される学力低下をきたさないようにしたいと考えています。

1日の生活の中に、家庭学習の時間を確保しておくというのも基本的な生活習慣の一つであります。

保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



仙台市立東二番丁小学校

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町二丁目1番4号

PHONE 022-222-6279 FAX: 022-714-9678

e-mail: touni1@sendai-c.ed.jp

URL: <http://www.sendai-c.ed.jp/~nibancho/>

東二っ子

家庭学習の すすめ

～基礎・基本の定着を目指して～



仙台市立東二番丁小学校

家庭学習の位置づけ

学校で学習したことを確かめる、思い出す時間を1日の生活の中で確保できるように、ご指導いただきたいと思います。

○ 学習時間

「10分+10分×学年」を目安に、家庭学習が行えるようになってほしいと思います。

学年	時間の目安
1・2年	20分～30分
3・4年	40分～50分
5・6年	1時間以上

家庭学習は時間の多少にかかわらず、継続することに意味があります。お子さんのやる気、自主的な取り組みを認めてあげながら、励ましていただければと思います。

○ 学習の場

低学年のお子さんの場合、学習机に座らせて、「勉強しなさい。」だけではうまく進めることができません。習慣づけは時間が掛かりますので、食卓を使って、親子一緒に楽しむ気持ちで行っていただけたらと思います。

また、お子さんと一度話し合っ、家庭学習の計画を立てる場を設けていただきたいと思います。その際、勉強を無理強いするのではなく、遊ぶ時間との折り合いをつけて、お子さんが納得いくようにご配慮ください。

音 読

書かれてある文章を声に出して読むことは、正しく意味を理解するとともに、脳の発達にも大きな効果があるそうです。また、表現力の育成という面から、毎日継続することが必要です。

○国語の教科書の音読

学習の進度に合わせて、担任から指示があります。

○音読教材の音読

学年によっては、教科書以外の音読教材も使用します。

○図書館の活用

図書館の本を活用して、週末・休日は、読書に代えることがあります。

Q つまづいてばかりで上達しないのですが？

A 長文をただ読んでもあまり効果はありません。短く区切って、同じところを何度か繰り返しましょう。ご家庭の方が読んだ後に続いて、追いかけて読むのも効果があります。継続すれば必ず上達しますので、お子さんを責めるのは避けてください。

漢字の読み・書き

その学年で習う漢字、前学年までに習った漢字について、プリントや漢字練習帳、ドリルを使って反復練習をします。

全員が同一の内容、同じ量ではなく、一人一人の必要に応じて取り組めるように工夫していきます。

Q 書き順が正しくないのですが？

A 授業では、筆順や筆の運びについても学習しています。ただ、自分の書きぐせがあったり、忘れていたりすることがありますので、間違いを見つけた時は修正をお願いします。なお、教科書の各単元の終わりに新出漢字の筆順が出ておりますので、参考にしてください。

Q 何度繰り返しても字が上手になりません。

A 頭に思い描いた字を練習するのではなく、手本をよく見て書くことが必要です。また、鉛筆の持ち方も確かめてみてください。持ち方が悪いと、うまく鉛筆を動かせないだけでなく、長時間書き続けることができません。矯正具もありますので、担任へご相談ください。

計算問題

整数、小数、分数の四則計算を中心に、プリントやドリルで反復練習をします。

これも、全員が同一の内容ではなく、助言を行いながら、つまづきが見られる内容や、練習が必要な内容を中心に取り組んでいきます。

Q プリントで分からない問題があった時は？

A ご家庭の方が教えて構いません。ただ、答えを教えたり、代わりに解いたりするのではなく、お子さんの補助としてアドバイスをお願いいたします。また、解けなかったところ、ご家庭の人に手伝ってもらったところが分かるようにしておいていただくと、担任の方でも補足することができます。

Q 親が習った時と計算の仕方が違うので、教えられません。

A 小学校で学習する四則演算については、基本的な計算方法、手順は変わっていません。ただ、子どもたち自身に計算方法を考えさせることに重きが置かれているため、教科書などの取り上げ方が違っていたり、「繰り上がりの印の位置」「繰り下がり印の位置」などの書き方が違っていたりすることがあります。教科書やノートでお確かめいただければ幸いです。もちろん「明日、先生に聞いてきなさい。」ということでも結構です。正しい計算方法の定着とともに、ご家庭の方にお子さんの学習状態を把握していただくというねらいもありますので、つまづきを見つけ次第、学校と家庭で協力して修正を行っていきたく考えています。

作文・日記

学校や生活の中での出来事、自分の思いなどを、国語の作文の学習と関連させながら、家庭での宿題に取り上げることがあります。また、学年によっては、日記として取り組むことがあります。

Q 間違った書き方をしていたのですが？

A ご家庭の方が指摘するのではなく、お子さんに読み直させて、間違いに気付かせてください。ただ、作文の場合は、自分の感じたことをのびのびと表現することも大切ですので、やり直しが多くなって書くことが嫌いになるようなことは避けてください。